
4002. 積荷目録情報登録

業務コード	内 容
MFR	積荷目録情報登録

1. 業務概要

本船利用船会社単位（共同運航の場合は、各本船利用船会社の自社単位）に積荷目録情報を登録する。
積荷目録提出前のB/L情報または空コンテナ情報の追加も本業務で行う。
なお、本業務は「積荷目録提出（DMF）」業務が行われるまで行うことができる。

2. 入力者

船会社、船舶代理店

3. 制限事項

- ① 1 B/Lで指定可能なコンテナ番号は最大100件とする。
- ② 1コンテナで指定可能なB/L番号は最大100件とする。
- ③ 1業務で入力可能なコンテナ番号は最大100件とする。
- ④ 1船舶コードに対して本業務を行える利用船会社数は、最大20件とする。
- ⑤ 1船卸港コードに対して指定できるコンテナオペレーション会社数は、最大5件とする。
- ⑥ 1船舶コードに対して登録可能なB/L番号及びコンテナ番号は、合計で最大9999件とする。

4. 入力条件

(1) 入力者チェック

- ① システムに登録されている利用者であること。
- ② 船舶代理店の場合は、入力された船卸港において本船利用船会社との受委託関係がシステムに登録されていること。

(2) 入力項目チェック

(A) 単項目チェック

「入力項目表」及び「オンライン業務共通設計書」参照。

(B) 項目間関連チェック

「入力項目表」及び「オンライン業務共通設計書」参照。

(3) 積荷目録管理DBチェック

入力された船舶コードに係る積荷目録管理DBが存在する場合は、当該港の積荷目録情報についてDMF業務が行われていないこと。

(4) 貨物情報DBチェック

B/L番号が入力された場合で、当該B/L番号に対する貨物情報DBが存在する場合は、以下のチェックを行う。

- ① 予備申告で作成した貨物情報DBであるか、または「混載貨物情報登録（NVC01）」業務で作成され、混載親の旨が登録された貨物情報DBであること。
- ② 既に入力された船舶コード+船卸港コード+船卸港枝番に係る積荷目録情報が登録されていないこと。
- ③ システム外搬入確認された貨物でないこと。
- ④ 到着即時輸入申告扱いまたは貨物到着前輸入申告扱いの予備申告の登録がされている場合は、本申告起動前であること。

(5) コンテナ情報DBチェック

入力されたコンテナ番号に係るコンテナ情報DBが存在する場合は、以下のチェックを行う。

- ① コンテナに登録可能なB/L件数を超えないこと。
- ② 登録済のコンテナ情報DBの船卸港と、入力された船卸港が同一であること。
- ③ 輸出コンテナとして登録されていた場合は、最新更新年月日から一定期間経過していること。

(6) 船舶DBチェック

入力された船舶コードに対する「船舶基本情報登録（VBX）」業務が行われていること。

(7) 包括保税運送DBチェック

包括保税運送を行う旨の入力がある場合は、以下のチェックを行う。

- ①入力された包括保税運送承認番号の包括保税運送DBが存在すること。
- ②本業務入力者と包括保税運送DBに登録されている包括保税運送承認を受けた利用者が同一であること。
- ③本業務入力年月日が運送承認期間を過ぎていないこと。
- ④コンテナオペレーション会社コードが「9999」以外の場合は、当該社が管理する保税地域と、包括保税運送承認を受けた発送地が同一であること。

5. 処理内容

(1) 入力チェック処理

前述の入力条件に合致するかチェックし、合致した場合に処理結果コード「00000-0000-0000」を設定の上、以降の処理を行う。

合致しなかった場合はエラーとし、「00000-0000-0000」以外の処理結果コードを設定の上、処理結果通知出力処理を行う。（エラー内容については「処理結果コード一覧」を参照。）

(2) 仮陸揚届出番号の払出し処理

仮陸揚貨物の旨が入力された場合は、仮陸揚届出番号をシステムで払い出す。

(3) 積荷目録管理DB処理

(A) コンテナ貨物の場合

(a) 積荷目録管理DBが存在する場合

- ①入力された情報を登録する。
- ②船会社コード+船舶コード+船卸港コード+船卸港枝番+CY毎の船卸予定B/L件数及び船卸予定空コンテナ件数を加算する。
- ③船会社コード+船舶コード+船卸港コード+船卸港枝番+CY毎に包括保税運送承認番号が登録されたB/L件数を加算する。

(b) 積荷目録管理DBが存在しない場合

- ①入力された船会社コード+船舶コード+船卸港コード+船卸港枝番に対する積荷目録管理DBを作成する。
- ②入力された情報を登録する。
- ③船会社コード+船舶コード+船卸港コード+船卸港枝番+CY毎の船卸予定B/L件数及び船卸予定空コンテナ件数を加算する。
- ④船会社コード+船舶コード+船卸港コード+船卸港枝番+CY毎に包括保税運送承認番号が登録されたB/L件数を加算する。

(B) 在来貨物の場合

(a) 積荷目録管理DBが存在する場合

- ①入力された情報を登録する。
- ②船会社コード+船舶コード+船卸港コード+船卸港枝番+CY毎の船卸予定B/L件数を加算する。
- ③船会社コード+船舶コード+船卸港コード+船卸港枝番+CY毎に包括保税運送承認番号が登録されたB/L件数を加算する。

(b) 積荷目録管理DBが存在しない場合

- ①入力された船会社コード+船舶コード+船卸港コード+船卸港枝番に対する積荷目録管理DBを作成する。

- ②入力された情報を登録する。
- ③船会社コード+船舶コード+船卸港コード+船卸港枝番+CY毎の船卸予定B/L件数を加算する。
- ④船会社コード+船舶コード+船卸港コード+船卸港枝番+CY毎に包括保税運送承認番号が登録されたB/L件数を加算する。

(4) 貨物情報DB処理

B/L番号が入力された場合は、以下の処理を行う。

(A) 貨物情報DBが存在する場合

- (a) 入力された貨物情報を登録する。
- (b) 到着即時輸入申告扱いの予備申告の登録がされ、かつ、以下の条件をいずれか満たす場合は、予備申告（搬入確認登録時本申告自動起動）を行う旨に変更する。
 - ①当該港と申告に係る船卸港が同一でない。
 - ②在来貨物である。
 - ③コンテナオペレーション会社コードに「99999」が入力されている。
- (c) 貨物到着前輸入申告扱いの予備申告の登録がされ、かつ、以下の条件をすべて満たす場合は、予備申告（搬入確認登録時本申告自動起動）を行う旨に変更する。
 - ①当該港と申告に係る船卸港が同一でない。
 - ②輸入貨物である。

(B) 貨物情報DBが存在しない場合

- ①入力されたB/L番号に対する貨物情報DBを作成する。
- ②入力された貨物情報を登録する。

(5) コンテナ情報DB処理

コンテナ番号に入力がある場合は、以下の処理を行う。

- ①入力されたコンテナ番号に対するコンテナ情報DBが存在しない場合は、コンテナ情報DBを作成する。
- ②入力されたB/L番号を登録する。
- ③B/L件数を加算する。
- ④入力されたコンテナ情報を登録する。
- ⑤卸コンテナ自動抽出対象外識別に「A」が入力された場合は、卸コンテナ情報登録処理において自動抽出しない。

(6) 出力情報出力処理

後述の出力情報出力処理を行う。出力項目については「出力項目表」を参照。

(7) 注意喚起メッセージ出力処理

入力された最終仕向地コードまたは荷渡地コードの3桁目から3文字分を「ZZZ」に変換（パケットコードに変換）して処理を行った場合は、注意喚起メッセージとして処理結果通知に出力する。コード変換処理の詳細については「入力項目表」を参照。

6. 出力情報

情報名	出力条件	出力先
処理結果通知	なし	入力者
到着即時申告予定コンテナ情報	以下の条件をすべて満たすとき、出力する (1) コンテナ貨物である (2) 当該貨物に到着即時輸入申告扱いの予備申告の登録がされている (3) コンテナオペレーション会社コードに「99999」以外が入力されている	CY